

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		11,576	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素換 算） 排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふつ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふつ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		11,576	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対基準年度）				%		%		%	%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対基準年度）						%		%	%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの排出量	0.3393	t-CO ₂ / トン	0.3291	t-CO ₂ / トン	0.342	t-CO ₂ / トン	0.3458	t-CO ₂ / トン	0.3444	t-CO ₂ / トン
削減率（対基準年度）			3.0	%	▲ 0.8	%	▲ 1.9	%	▲ 1.5	%
原単位あたりのみなし排出量						t-CO ₂ / トン	0.1959	t-CO ₂ / トン	0.2173	t-CO ₂ / トン
削減率（対基準年度）						%	42.3	%	36.0	%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

焼却灰の搬入量が2024年度は自治体都合により計画数量よりも増えた為、処理量が増加した。しかし、2023年度に比べて2024年度は、副資材の使用量が増え、それに伴い電気使用量が増加した為、改善が出来なかった。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
製造施設の稼働状況可視化装置	電力以外のエネルギー使用量が見える化し、無駄なエネルギー使用を抑制。社員への省エネの意識付けを行なう。	設置後の確実な運用	可視化装置の設置を計画していたが、費用対効果を検討した結果、設置は見送ることとなった。社員への省エネの意識付けは委員会活動を通して実施継続。
溶融物の排熱利用	溶融物の排熱を利用し、原料を乾燥することで都市ガス使用量を削減する。	原油換算10k1/年削減	原料保管場所にて溶融物の輻射熱利用を継続中。
有価金属回収のための溶融操作方法の変更によって、電力使用量を削減する。	電気炉に装入する成分を分析し、熱効率が良い配合で操業することで電力消費を抑える。	原油換算50k1/年削減	営業部と製造部で協力して配合について検討継続。最適な配合になるよう日々の操業にて試験継続中。

指針第 2 号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)
平成29年	太陽光発電設備	再生可能エネルギーによる発電量:32277kWh

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
その他クレジット	福岡県	3,123.0 t-CO ₂
その他クレジット	長野県	493.0 t-CO ₂
その他クレジット	三重県	655.0 t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

4,271.0 t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

①コピー紙再生紙の使用、裏面の再利用 ②ペットボトル、缶類は分別リサイクルへ ③空調温度の設定、昼休みの消灯
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

①照明スイッチ類のこまめな入、切②冷房、暖房などの空調機の温度調節 ③緑のカーテン植樹④通勤通路の清掃、会社周りの一般歩道の除草と清掃
--